

登録コード	A3453300	開講年度	2026				
授業科目	農村整備演習				担当教員	内川 義行	
英文授業名	Practice of Rural Development					鈴木 純	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・3時限 木曜・4時限 木曜・5時限	対象学生	3年生
講義室	農学部 1 5 番講義室		授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2 0 2 2 Aカリ, 2 0 2 1 Aカリ, 2 0 2 0 Aカリ, 2 0 1 9 Aカリ						
	【2022年度以前カリキュラム対象】 専門的な知識や研究能力を修得している				⇔	農山村における生産基盤や生活環境の現状と課題についての知識を修得し、理解・説明できる。農山村調査を企画検討・実施することができる。以上を踏まえた地域のあり方について考察し検討することができる。	
	2 0 2 6 A3編 (24A), 2 0 2 5 A3編 (23A), 2 0 2 4 Aカリ, 2 0 2 3 Aカリ						
	【2024年度以前カリキュラム対象】 専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。				⇔	農山村における生産基盤や生活環境の現状と課題についての知識を修得し、理解・説明できる。農山村調査を企画検討・実施することができる。以上を踏まえた地域のあり方について考察し検討することができる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、環境マインド実践人材養成コース、ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース						
(4)授業の概要	本演習は、農山村における生産基盤や生活環境の実態を講義・現地見学を通して把握した上で、実際に農山村の現場調査・巡検を実施し、それに対する検討を行う。 なお、担当教員は公務員・技術職の実務経験を活かして実施する。						
(5)授業計画	第1回 ガイダンス 参加における留意点 大学周辺の農村整備事業の見学 Ⅰ.農村の生活環境整備 第2回 構内整備計画 (1) 第3回 構内整備計画 (2) 第4回 構内整備計画 (3) 第5回 構内整備計画 (4) Ⅱ.施設の設計 第6回 土質試験 (1) 含水比、土粒子密度、乾燥密度 第7回 土質試験 (2) CBR試験 第8回 土質試験 (3) 設計CBRと舗装設計 第9回 土質試験 (4) 土質試験結果による農地の評価 Ⅲ.県行政技術者の仕事から学ぶ生産環境整備 第10回 農業農村整備事業とその現場 第11回 現場監督と地元調整 第12回 設計 (CAD) と積算・発注 第13回 長野県職員とのディスカッション Ⅳ.工事の測量と建設現場の実際 第14回 ICT建機と施工 第15回 各種レーザー測量機器と 3D設計 第16回 まとめ 授業アンケートの実施						
(6)自主学習の指針	各回の作業が演習時間内に終了できない場合は、次回までに指定する内容を必ずおこなうこと。						
(7)成績評価の基準	i) 課題の背景・目的を説明でき、ii) 課題への接近方法を適切に把握・実施しており、iii) 結果について適正な処理とまとめができ、さらにiv) 自らの見解を考察に既述できている。以上の、i) からiv) を満たしていれば「かなり上にある」。三項目までできていれば「やや上にある」。二項目までは「水準にある」とする。						
(8)事前事後学習の内容	配付資料や参考書を事前に確認し、当日演習する内容について確認しておくこと。 また、演習終了後は、紹介した図書等についても十分に参考にし、学習した内容を深めること。						
(9)テストやレポートの予定	レポートを課す。 1) 演習内容の概要を理解した、2) 示された課題を認識できている、3) これら課題に対して示された対応策について理解した、4) その上で自らの見解を提示できている、の全てが達せられている場合は「卓越している」、1)～3) の項目を満たしていれば「かなり上にある」、2 項目までならば「ややうえにある」、1 項目であれば「その水準にある」と評価する。						
(10)成績評価の方法	課題レポートによる。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	鈴木研究室、内川研究室にて対応する。						

(12)履修上の注意	「農山村計画学」「農村整備学」「測量学実習」を受講しておくこと。
【教科書】	土質試験のてびき（最新版） 土木学会
【参考書】	特になし